

# 敵基地攻撃能力の保有に賛成、 大阪都構想に賛成ですが、 新・立憲民主党を支持します。

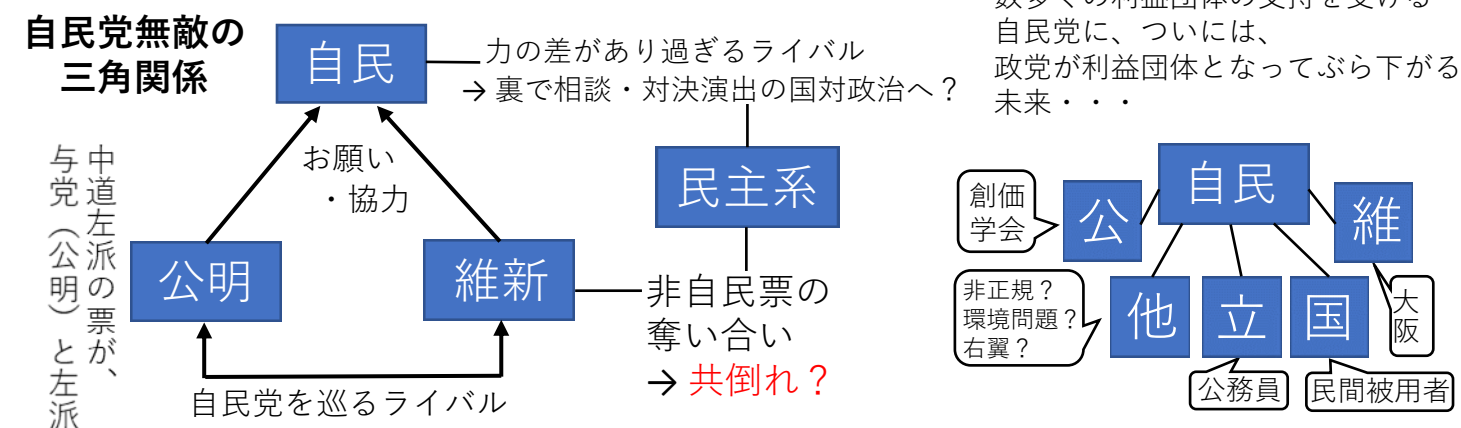
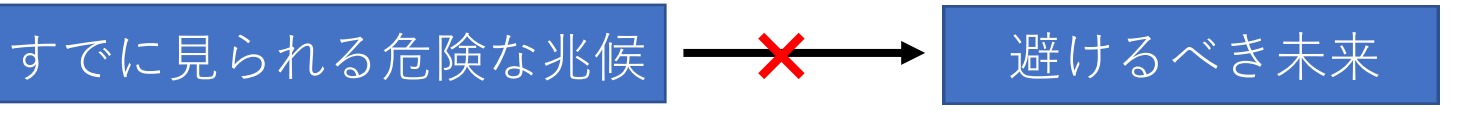
～今、外の脅威にも、内なる脅威にも負けない国へ～

政権交代論チラシ 2020年、秋第1号(全4号)  
製作者:伊吹健(政権交代.com)

内なる脅威、**政権交代なき1党優位**とは、

腐敗、癒着、関係する一部への利益誘導優先の政治の完全な定着。  
活力がなく、優位政党が道を誤った時に、選択肢のない政治。  
公文書を書き換え、記録を消してしまう、検証を許さない政治。  
そして国民は正確な情報を得られず、知らないうちに監視され、  
批判する自由を失う。政権を選ぶ自由を完全に失う。

このままだとどうなるのか？



そして選挙区での癒着構造の維持のためには、議員の後継者は、親族が最も良い。→ 世襲

**優位政党自民党が全てを調整する政治、競争のない、事実上の1党制。日本は中国のようになるのか、それでいいのか？**

反自民ではなく、慢性的な1党優位の状況に反対します！

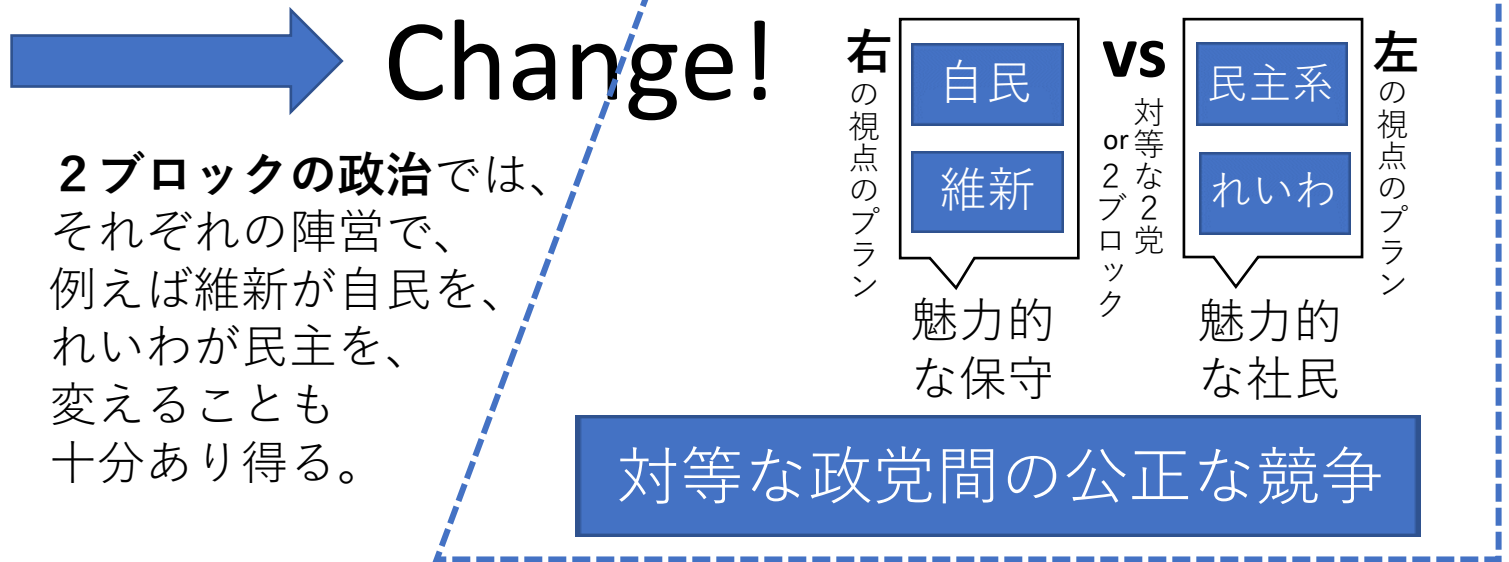
**政権交代は不要では？**  
政権運営にあたっては、自己点検が満足にはできません。今やっていることを否定するのは困難です。だから与党でい続ける自民党は、見えないところでポロポロになります。欧米の政党は、野党になった時に自己点検をし、魅力的な党首を選びます。今の自民党が良くも悪くも強いのは、政権交代で野党になり、立ち止まる事ができたからです。

**左派野党はダメ？**  
野党には問題があります。しかしそれには理由があり、国民の力があれば変えられます。野党は長すぎる期間、あまりに不利でした。機会も余裕もないまま、未熟である上に、ひねくれてしまいました。左派野党にはまだまだ「実習」が足りません。与党経験が必要です。また、自民党に対する挑戦者をコロコロ替えてしまったら、野党第1党は育ちません。

野党第1党を保守政党にすることは、今まで出来なかった。それには理由がある。中途半端な新党ブームを終わらせて、自由民主党を利益誘導のゆ着政治から、明確な保守政党へ、立憲民主党を政権担当能力の高い、社会民主主義政党へ。変えて、育てて、競争させなければいけない。

左右の分類は基本であり、まだ全く古くない。例えば「右」は伝統重視・競争重視、「左」は平等重視・伝統からの自由、というイメージがあれば、多くの人を選びやすい。みんなにいい顔をしたり、「うちが全部うまくやるから」というのでは選べない。その方が古い。変化の時にすでにさしかかっているからこそ、基本をマスターしておかなければ危険である。左右の大政党が競争し、磨き合うのは、欧米の議会先進国の基本中の基本。軽視すべきではない。

今の選挙制度にも問題はあるが、これなら今の制度でも可能！



# 議会ができて130年、 選挙による政権交代は1回だけ・・・

(詳しくは、政権交代.com)

2009年、日本人は政権交代という、民主政治への重要かつ困難な、大きな一歩を踏み出した。しかし、あきらめてしまった・・・

## 政権交代はなぜ失敗したのか？

- 野党に政権運営の経験がほとんどなかった。
    - ・・・一定期間、繰り返し、与党にすることが重要。
  - 左派政党の非現実的な理想主義。
    - ・・・やはり、一定期間、繰り返し、与党にすることが重要。
- 日本の左派政党の、弾圧、戦争、敗戦の時代との巡り合わせ、その後の不利な状況に理解を示し、今の成長に目を向けることが重要。かつて万年野党の社会党は、1994年に政権を得た時、自衛隊容認、日米安保堅持へと舵を切り、反対していた消費税の、引き上げに動いた。これは国民、支持者への裏切りではあったが、**政権を取れば現実的になる・・・それは、実は成長の第一段階。**

## 日本の民主政は土台に大きなひびが入った状態・・・

国民は政権を選択せず、ただ「追認」して来た。  
 ...昭和の政党内閣期は、必ず与党が選挙に勝っていた。  
 細川非自民連立政権は、自民党の分裂によって誕生した。  
 ※総選挙では、自民党の議席数は変わっていない。  
 仕方のない事でもあったが、そろそろ変わらなければ、民主主義の国とは言えない。**総理・自民党総裁交代で支持率上昇は追認の極み。**

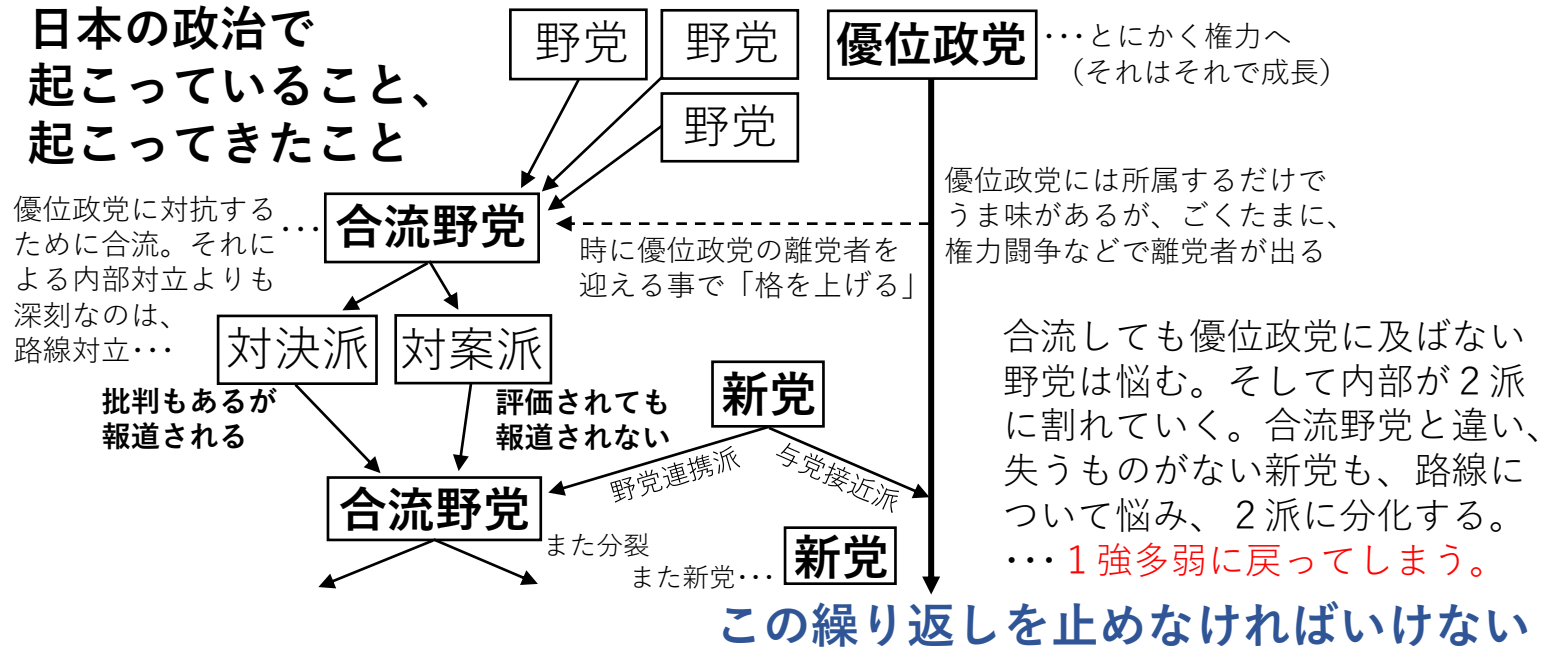
## 野党は反対ばかりと言うが・・・

実際はそうではないとも言える。またそうだとすると、メディアが自民党政権を恐れるか、過度に親しくなれば、記録を改ざんする、隠す政権を、誰もチェックできなくなる。だが野党が国会で政権を追求すれば、それだけは今のところ、必ず中継される。  
 それは左派野党が政権を取っても同じ事。国民が知る事は重要だ。

共謀罪、特定秘密保護法、スマートシティ、誹謗中傷対策強化、そしてモリカケやサクラは、本来は**特別心配すべき問題ではない。**  
**政権交代なき1党優位+これらの問題**という組み合わせが恐ろしい。

政策で選んではいけない。政策で選べるようにしなければいけない。政党相性診断で投票先を決めても、勝つのが自民党だと、事実上決まっただけでは意味がない。選べるようにするためには、与野党の格差の縮小が不可欠。・・・野党第1党を強化するしかない。

## 日本の政治で 起こっていること、 起こってきたこと



**この繰り返しを止めなければいけない**

なぜ繰り返すのか？ それは優位政党が強すぎるから。国民にとって苦難の道であっても、野党を強め、「実習」のために政権交代を実現させ、国をあげて政権交代のノウハウを蓄積することが最も重要。

- 政権交代なき政治では、**困った時に急に政権をかえても機能しない。** (議席の少ない野党がいきなり第1党になっても、新人だらけで指導力を発揮できない) ...野党第1党にもっと多くの議席と経験を！
  - 各種団体、創価学会の票が集まる自民党に対して、**野党は、右に寄れば左の票を失い、左に寄れば右の票を失う。** 対案を出せば弱腰と非難され、反対すれば政権担当能力がないと言われてしまう。  
 ...国会全体が国民の鏡。野党を軽蔑する人は自分を軽蔑している。
  - 維新の会は、フリーライダー。** 弱い党が弱い党をたたいてもダメ。
    - ① 野党が政権批判 → 自民党の支持低下
    - ② 維新の会が野党を「何でも反対」と批判 → 左派野党の支持低下 → 維新が相対的に浮上・・・しかし結局、野党が共倒れになるだけ。
- ※自民党の変化、維新の登場による保守陣営全体の変化は民主党政権の時に起こっている。政権交代は、時代に応える変化を生む。

## 勇気を出して、**選択権**を手に入れませんか？

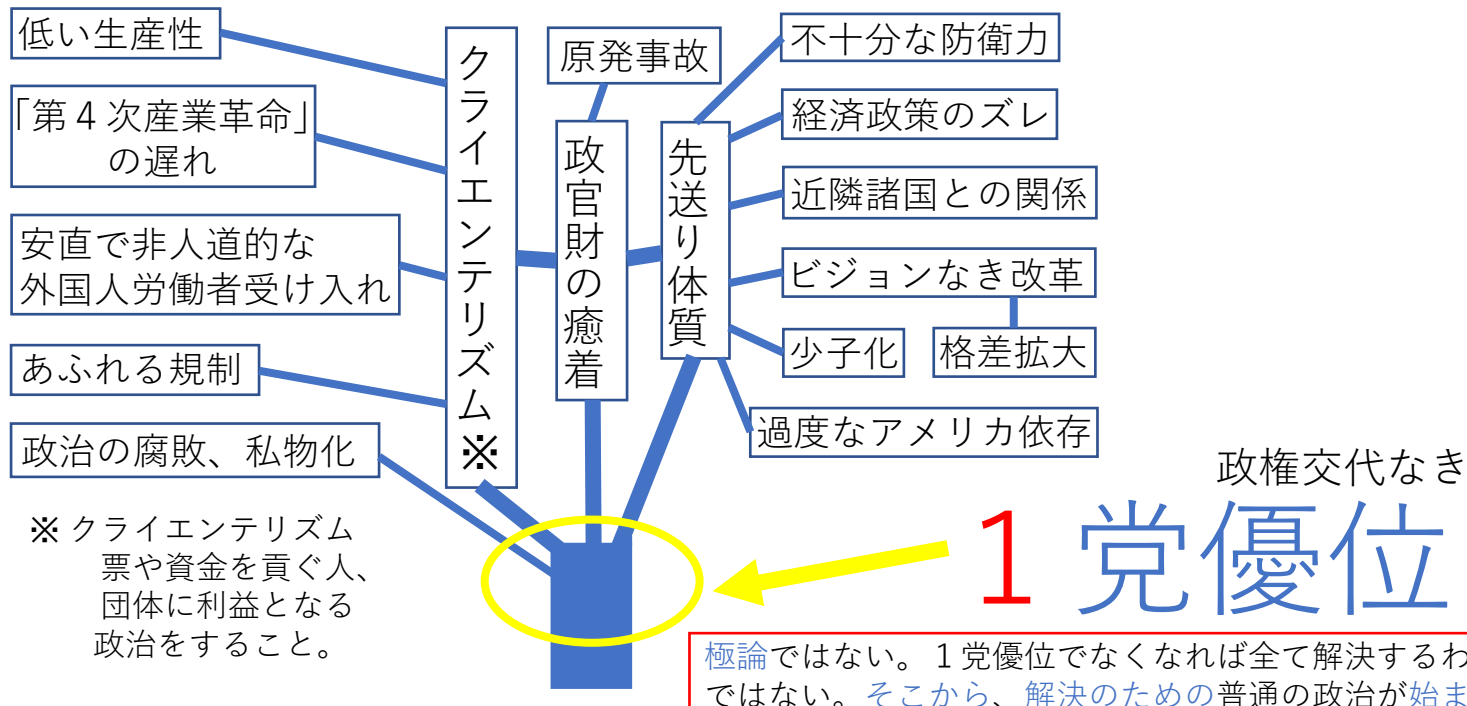
「野党の苦悩」で失敗する  
**「軌跡の政権交代」** → **安定した政権+  
政権交代の定着**



# 「無保険」の国、日本の危機!?

政治の**1強多弱**という  
無競争、無保険状態

全ての問題は**1つの根**につながっている。



極論ではない。1党優位でなくなれば全て解決するわけではない。そこから、解決のための普通の政治が始まる。

民主制とは、国民が政党、政権を選ぶことで、国の大まかな方針を定めるもの。しかし日本は、**議会ができて130年、選挙による政権交代は1度だけ...**

(詳しくは、政権交代.com)

自民党は結成から65年。そのうち、約62年間は第1党、約61年間は与党第1党それ以前も似たような状況...

2009年、日本人は初めて自転車の補助輪を外し、倒れた。それであきらめるのか？日本だけが、あきらめるのか？

2000年代後半、競争重視の自民党と、平等重視の民主党が対等になってゆき、欧米の基本に近づいた。だが1つ、違いがあった、日本の野党には政権運営の経験がほとんどなかった...

独裁的でない国を除けば、**同じ政党がほぼずっと第1党で、かつ、政権交代も定着していない国は、世界で日本だけ。**

※南アフリカは例外。  
詳しくは政権交代.com

日本人は努力をしてきた。倒れても立ち上がり、日本を発展させてきた。しかしただ1つ、政権を選び、国の進路に責任を負うことができなかった。その機会を得られなかった。政治を「お上」のもの、「見せ物」として受け止めて、**民主主義国としての土台、基礎の亀裂を放置してしまった。**だが冷戦すら、とうに終わっている。優位政党に求めるばかりで、不満を持てばブームに沸く... そんな「常態」を終わらせる。

今、変わるべき時。

## ○ 1党優位の何が問題か、何が恐いのか？

- ・ 現に政権運営をしている優位政党が、野党となって冷静に、自らの政策等を点検することができない
- ・ 優位政党のおごり、ゆ着構造、人材の偏りが深刻なものとなる。
- ・ 利益団体だけでなく、一部の野党が優位政党にすり寄る。  
→ 特定の地域、団体を基盤とする野党の、利益団体化
- ・ 圧倒的に不利な第2党が、目立つために「何でも反対」になる。
- ・ いざ政権交代をさせても機能しない。→ 国の変化が困難になる。

例えば、「説明はいらないでしょ?」「とにかく全部任せて」という病院で、「セカンドオピニオン」は無し! という状態...

そしてコロナ禍で苦しむ人が大勢いても、保身優先  
関係者優先  
中抜き天国

国民は何も、知らなくていい、考えなくていい、票だけくれればいい	安い賃金、長い労働時間、質素な暮らし、増える負担、みんなで乗り越えよう	みんなにいい顔をしながら関係者にバラマキ	表面的にはうまくいっているように見えてただ先送り、微調整に次ぐ、微調整、同じところをぐるぐる回るだけ	あわてて改革! しかし単なるショーと化し、みんなで「下」に合わせるばかり
---------------------------------	-------------------------------------	----------------------	--	--------------------------------------

**今も戦時中と同じ、国民に甘えきった政治。これに気付かせない、忘れさせる洗脳の手段**  
... 「野党はもっとダメだ」という言葉  
**変えさせない手段**  
... ぬえのような優位政党に対抗する**野党の、分断**

自民党に対する挑戦者をコロコロ取りかえない

離合集散、ブームの繰り返しから抜け出す

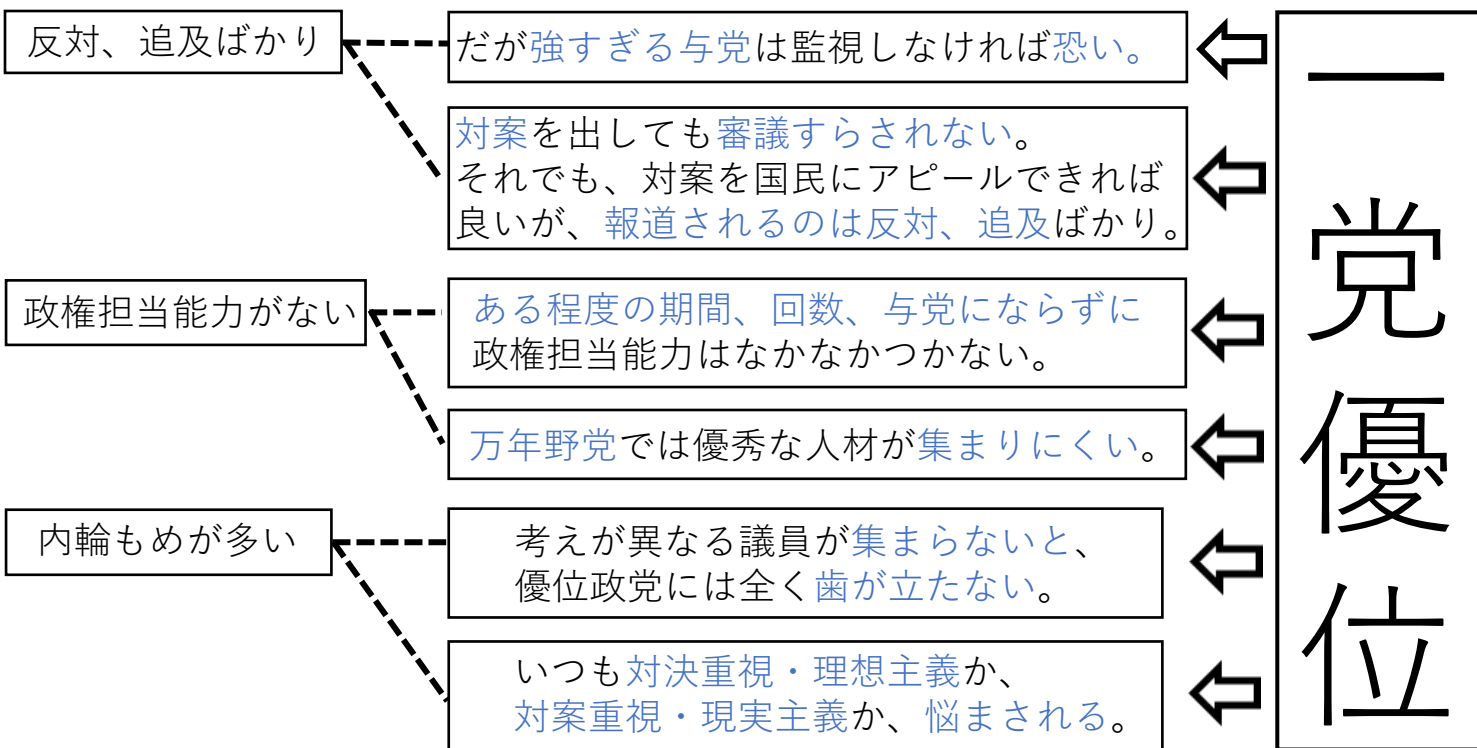
解決策はただ**1つ**、政党間の本格的な競争、**国民の選択。**

↳ そのためには、**自民党を優位政党でなくすしかない!**

↳ そしてそのためには、**野党第1党を育てていくしかない。**  
... 自民党を明確な保守に、民主党系を明確な社民に、育てる (欧米等における基本のマスター)。

**野党第1党は、実は変えられる!**

# 野党第1党はなぜ「ダメ」なのか？



# 野党第1党を取りかえられないのか？

→ 取りかえることは可能だが、日本は新党ブームを繰り返しながらも、**結局は社会党の流れを野党第1党にしてきた。**

・・・社会党 → 民主党 → 民進党 → 立憲民主党  
↑新進党分裂により野党第1党に ↑総選挙で希望の党に変わって野党第1党に

これは**当然**の帰結・・・**保守 vs 社民**は欧米の**基本**であり、  
 政権交代のない日本はまだそれを**マスターしていない**。

野党第1党をかえずに、それよりも弱い「**第3極**」に**目移り**した結果、  
**1強多弱が悪化**、自民党中心の「三角関係」が定着。

・・・約25年前から、保守野党は自民党の右派に、左派野党は自民党の穏健派に期待、しかし自民党は割れず、自公連立。  
**各党は利用され、各個撃破**。野党第1党と他の野党が**共倒れ**。  
**第3極は必ず、自民党側と野党側に分裂**・・・

**ブームを繰り返しては、新党も、肝心の野党第1党も育たない。**

新自クブーム('76)、土井社会党ブーム('89)、日本新党ブーム('92)、3新党ブーム('93)、  
 小泉自民ブーム('05)、民主党ブーム('07~'09)、みんなの党ブーム('09~'10)、維新ブーム('12)、  
 小池ブーム('16~'17)、立憲民主党ブーム('17)、そして再び維新ブーム？ それともれいわ？

**もっとも重要なのは、野党第1党を・・・**

- ・非常に**不利な状況**にさらし、政権担当能力なき非現実的な政党に、「注目されぬ対案型政党」に、**ひねくれた政党に、しないこと**。
  - ・自らが政権を運営することを、本当に前提とする政党にすること。
  - ・以前の与党の**経験者**もいる間に、**与党経験**をさらに**増やす**こと。
- 平等重視、平和重視の**理想**を持ちつつ、まずは**現実的**に動く政党に！

# 今できること、すべきこと

～ 急がば回れ、急いで回るしかない！～

**選択をする**・・・今だって、**選ぶことはできる**。  
 第1党の自民党総裁、第2党の立憲民主党代表から**選択**。  
 ...実際には、自民党をほぼずっと選び続けてきたので、  
 まずは立憲民主党を選んで、**与党経験**を積ませる。

**優位政党を優位政党でなくすることが最重要**であり、そのためには、  
 ライバルが安定して強くなる**ことがとても重要**。・・・**ライバルも進化していく**。

**総選挙では・・・**

- ・野党統一候補がいれば、その**野党統一候補**に票を投じる。
  - ・いなければ、**最も勝てそうな野党候補**に票を投じる。  
 (勝てそうな候補がはっきりしなければ、**野党第1党の候補**に入れる)
- ※ どんな結果を招くとしても、優位政党を弱らせるため、維新の会の候補が野党統一候補よりも明確に有利である場合、票を投じる。



これでどう変わるのか？

- ・**維新の会が自民党寄りか、完全な中立である場合**・・・  
 自民、公明、維新が弱まり、立憲民主党等の左派野党が強まる。  
 → 維新がキャスティングボートを握り、自公維連立になるとしても、  
 本来圧倒的に強い自+公+維と、左派野党が対等になればまだ良い。

- ・**維新の会が野党とすみ分け等の調整をする場合**・・・  
 自公惨敗、他の諸政党が勝利 → 自民党が民主側と維新側に分裂を  
 するような再編が起こること、公明党が変化することもあり得る。  
**自公が弱体化、分裂すれば、新自由主義維新 vs 社民的左派政党に。**

政権交代が実現すれば、自民党は**政権運営に忙殺されない野党**  
 として、路線を**点検、明確化**し、それを体現する党首を選ぶ。

党首選の結果を受けて変化しても良い、これも欧米の基本！

そして、**10年くらいで自民党へ政権再交代**、

この、**一定の期間**を空けた**交代**を続け、政権交代を**定着**させる。  
 第2党の**政権獲得の可能性**が**低くない**状況で、**再生、競争**！

**欧米の基本をマスターしてから、必要に応じて変化をする**

**IT技術の国際競争、全否定はできないグローバル化**・・・

産業発展重視・競争重視の保守政党と、  
 平等重視・弱者への配慮重視の左派政党の、**両方が必要**！ それらが  
 互いに敬意を持ちつつ、産業や格差の問題、都市と地方、若者と高齢者の  
 問題に、まずは**それぞれの立場から答えを出す**。→ 必要になれば政界再編



# 日本はまだ民主主義国ではない!?

政権交代論チラシ 2020年、秋 第3号 (全4号)

製作者: 伊吹健 (政権交代.com)

国会ができて**130年**、  
選挙による政権交代は**1度**だけ!

2009年の  
(詳しくはホームページ、政権交代.com)

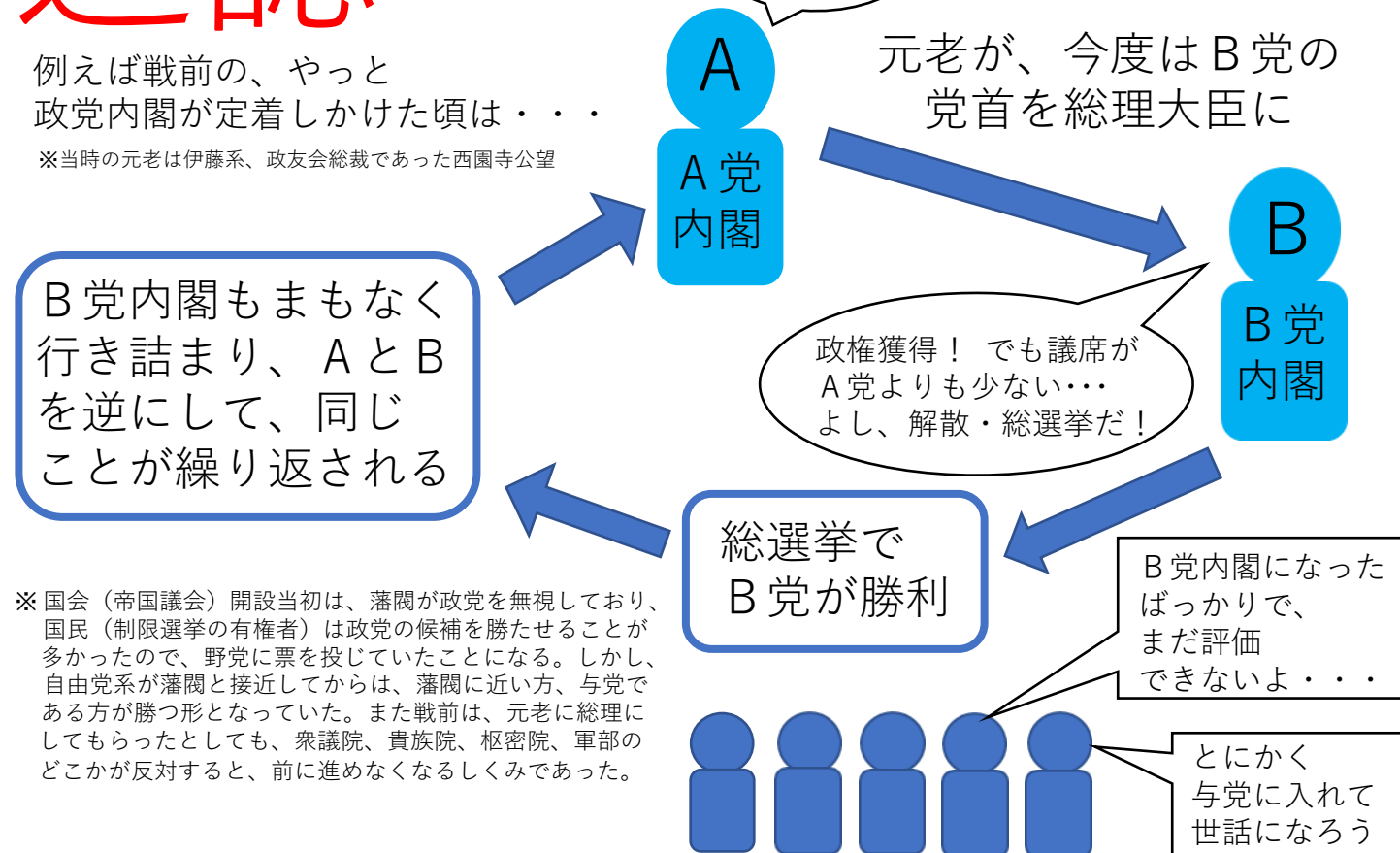
では誰が総理大臣を選んでいるのか?

戦前: 元老 (藩閥のトップ) 国民が間接的にでも選ぶのはまだ早い  
戦後: 自民党の有力者 自民党の中で1番大きな派閥、最大の派閥連合を作れば勝ち

国民は何をしていたのか・・・それは、

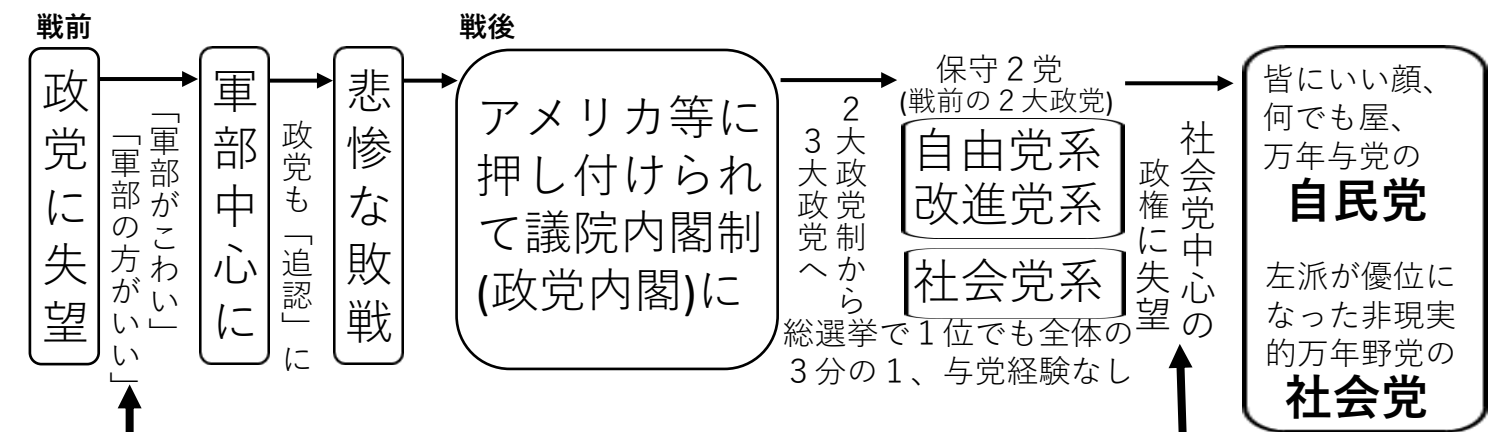
## 追認・・・

例えば戦前の、やっと政党内閣が定着しかけた頃は・・・  
※当時の元老は伊藤系、政友会総裁であった西園寺公望



※国会(帝国議会)開設当初は、藩閥が政党を無視しており、国民(制限選挙の有権者)は政党の候補を勝たせることが多かった。野党に票を投じていたことになる。しかし、自由系が藩閥と接近してからは、藩閥に近い方、与党である方が勝つ形となっていた。また戦前は、元老に総理にしてもらったとしても、衆議院、貴族院、枢密院、軍部のどこかが反対すると、前に進めなくなるしくみであった。

戦前、2大政党が対等になって、政権交代は選挙ではなく、政権の行き詰まりを原因とし、選挙は与党になれば勝てたため、2大政党の足の引っ張り合いが特に深刻となり、軍のクーデタ未遂(五・一五事件)を機に、政党内閣期に幕が下りた。終戦後の転換期には、むしろ自由党(政友会)系の優位が復活、さらに自民党に発展。

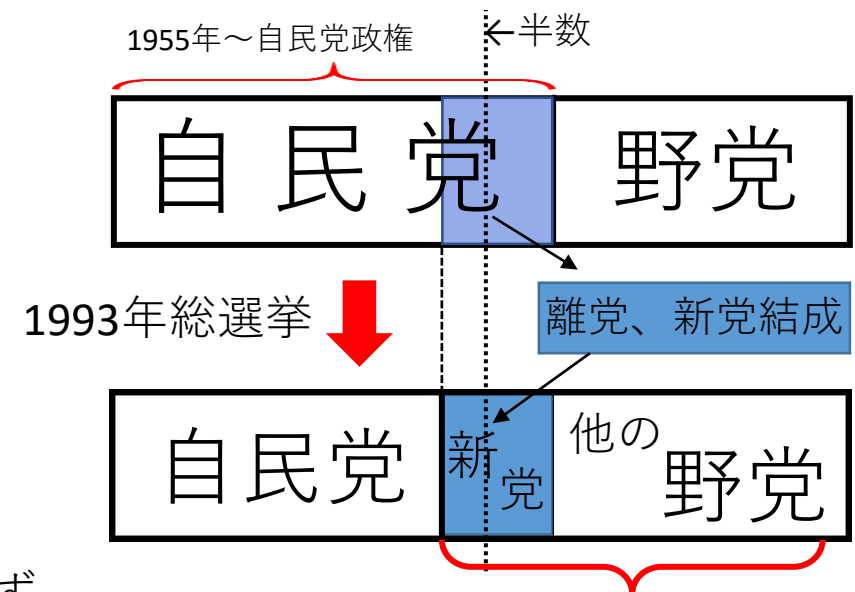


険しい道ではあったが、本来ここから王道に入ることが出来た。選択肢を得るには根気が必要。痛みもある。だがそれが、他の先進国も通った道。票を投じることで変化を起こし、声を届け続けるしかない。

しかしその後、自民党が初めて野党になった時にも国民は、

## 追認・・・

自民党の議席は減らず、社会党が減った以外、野党の議席もあまり変わらず、第1、2党は自民党、社会党のまま・・・非自民連立政権が成立



そして今は・・・  
自民党結成から約65年。うち約62年間は第1党  
うち約61年間は与党第1党

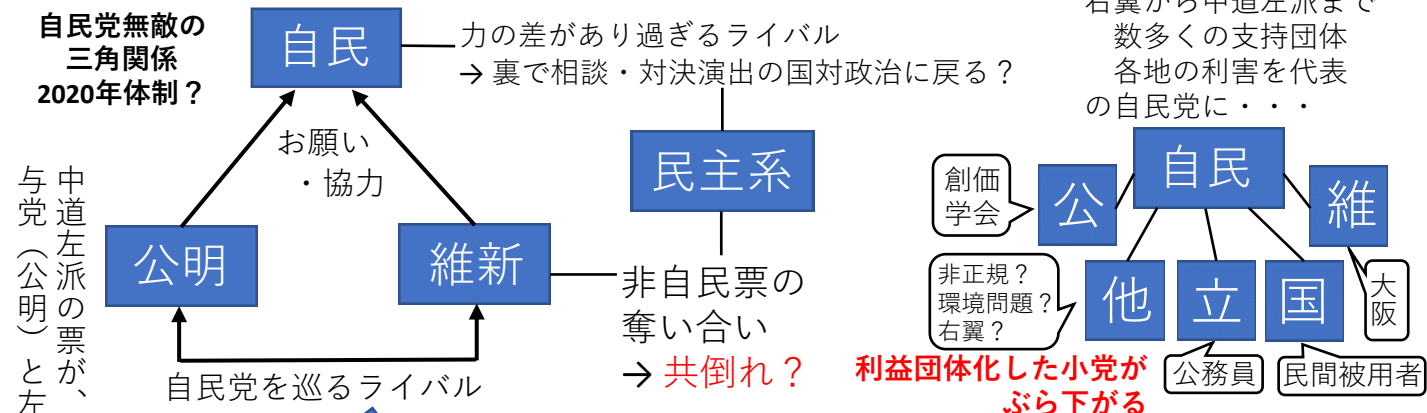
いびつな現状とは? 進むべき未来とは、

裏面をご覧ください。

追認も、民主主義国となるための重要な一段階だが、イギリスでは国民が追認を拒み、選挙によって政権の存続、交代が決まるようになったのに対して、日本では、今でも必ず与党が勝つ(戦後の例外は、2009年のみ)。与党と野党の議席数の比すら、変わることは少ない。

# いびつな現状を変えて、国民が選択できる政治へ

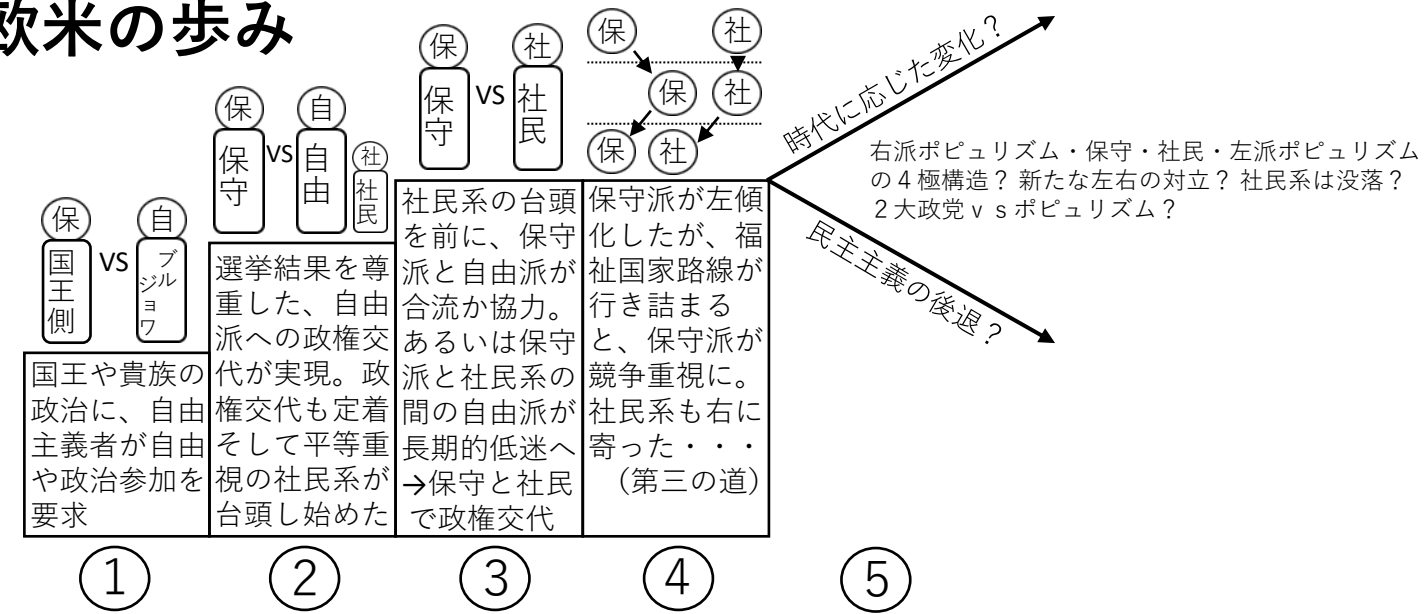
これまで 政党間の談合 **X** 避けるべき未来 何でもありの優位政党と...



中道左派の票が、与党（公明）と左派野党に分散



# 欧米の歩み



## 自民党はなぜ強いのか

社会、共産以外のほぼ全政党が合流して万年与党に。保守政党だが中央に陣取り、利益誘導で票が集中、中選挙区制が第2党の台頭を抑え、非現実的なままにし、野党を多党化。有利な時に衆院解散、1票の格差（農村偏重）にも助けられている。冷戦後は野党が自民の左と右に分散。公明党は自民党側に。

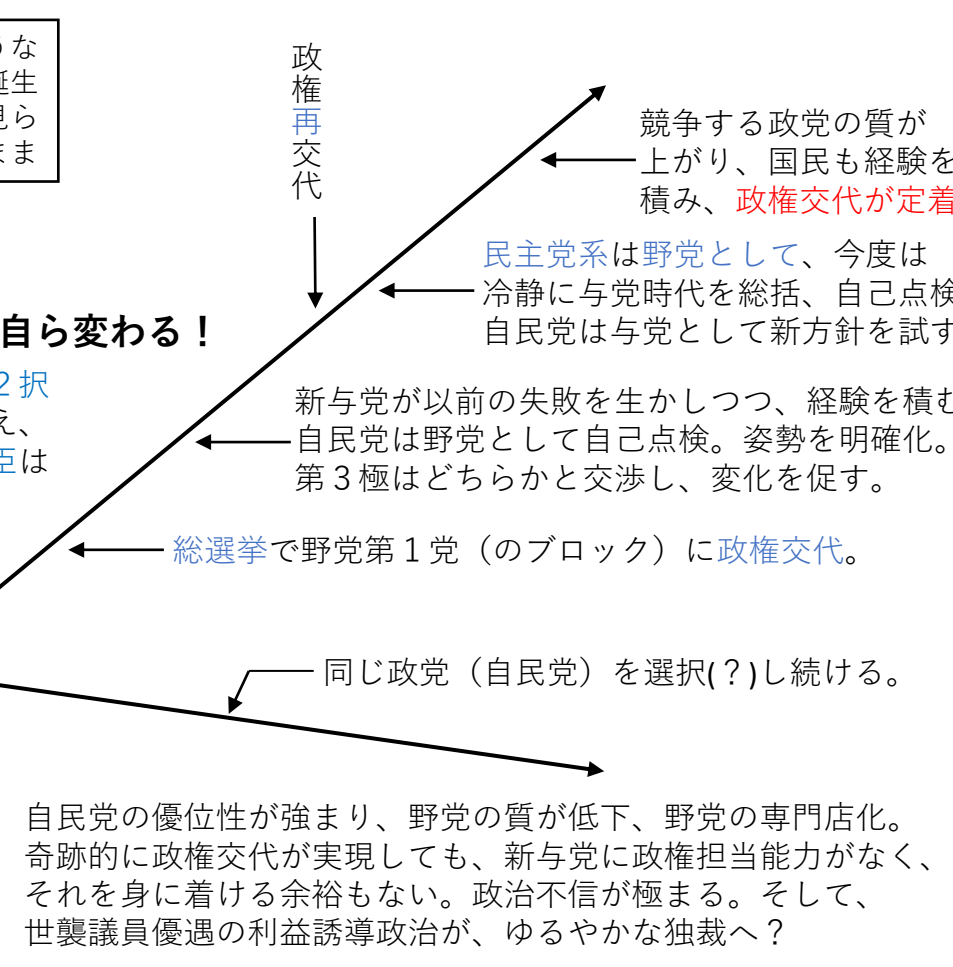
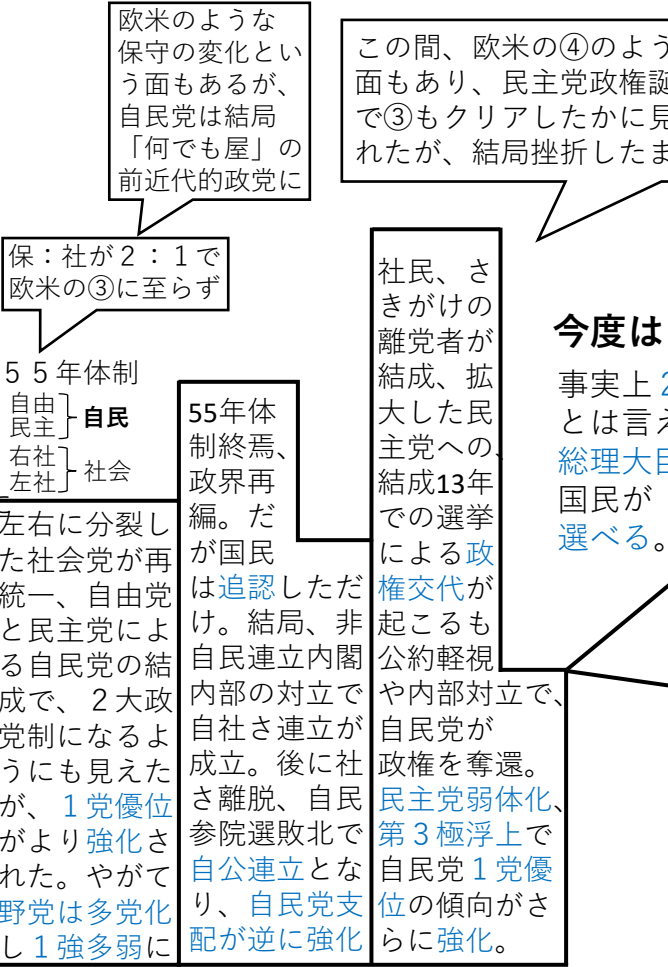
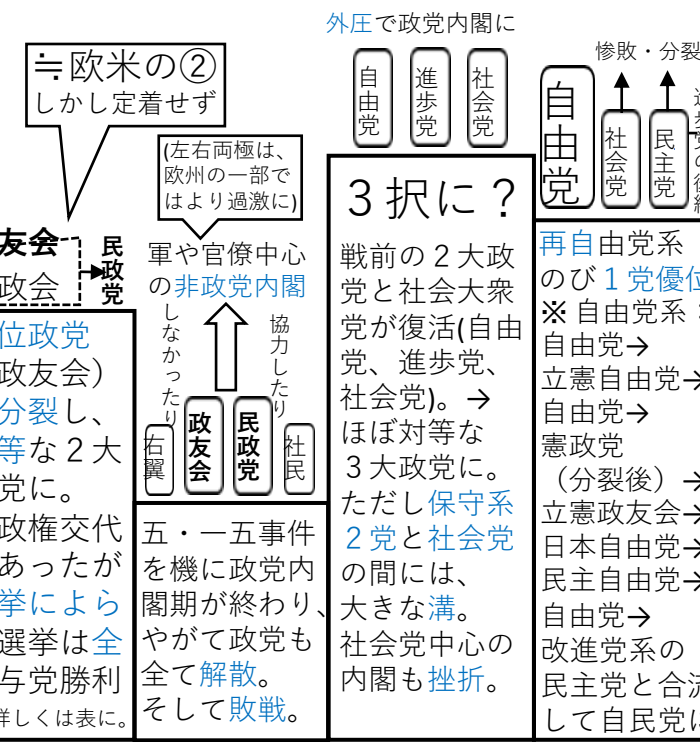
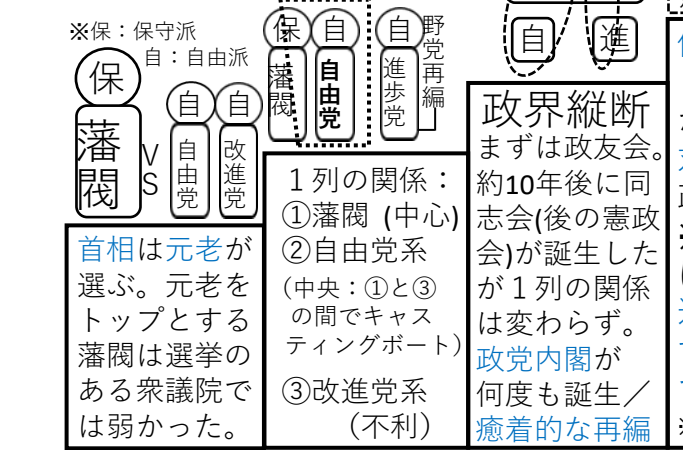
## 左派政党はなぜ弱いのか

戦前の弾圧、欧米の左派政党とは異なる段階でロシア革命等に遭遇。欧米では現実的な社民系となっていく左派政党から、最左派が離党して共産党に。しかし日本では、社会党の中に強い最左派。その影響で経済よりも、日米安保反対、自衛隊反対に（それが支持されたのは悲惨な戦争体験のため）。以上から、票も人材も集めにくくなった。そして、対案路線を特に評価しない国民、対決ばかりに注目する報道。

# 日本の歩み

外圧で迫られた変化 → 議会の設置

この頃自由派2党が合流し、初の政党内閣が成立したが、すぐに崩壊・分裂





# 『自民党もだめだけど、 他はもっとダメだから』

**それ  
本当!?** **それで解決しますか？  
納得できますか？**

政権交代論チラシ 2020年、秋第4号(全4号) 製作者:伊吹健(政権交代.com)

「自民はだめだけど、他はもっとダメ」 → これで誰が喜んでいるか、考えたことはありますか？

「立憲民主党もやはりダメそうだ」 → 日本の野党がなぜ「だめ」か、理由を考えたことはありますか？  
※左派野党は反対ばかりというのも一面的

「安倍内閣はいやだけど、民主党政権に戻るのはいやだ」 → 選択をせず、与党を勝たせ続ける国民がどれだけ軽く見られるものか、考えたことはありますか？

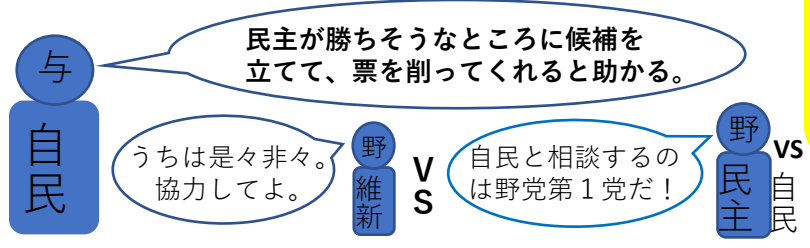
「外交、経済を考えると、自民党しかないのでは？」 → しがらみが多い万年与党では、大事な時に**変えられない**。今までも**微調整、先送りの連続**で、国力が低下。回り道であっても、野党に与党経験を積ませ、育てるしかない。  
株は日銀・年金が買う事で上がっており、実体経済と乖離している。

「国防を左派政党には任せられない！」 → しかし**経験を積ませなければ変わらない**。左派政党が政権を取った時には、むしろ現実(官僚?)に流される傾向があるから、ある程度現実的になるのは当然として、理想を持たせ続けることも重要。

「いざとなったら政権交代すればいい」 → 急に、**1回ではムリ!** 失敗があっても、**政権交代は定着しなければ機能しない**。

どんな国でも通る道。自民党の祖先は内紛で約4カ月で政権崩壊(第1次大隈内閣)。何より、開戦を止められなかった。戦後も常に優秀であったわけでは全くない・・・  
**都合の良い国民でいれば、再び過ちを繰り返す。**

「今度は維新の会にかけてみたい！」 → 本当は良い。しかし・・・ 1党優位、中央集権の日本では、**自民党の力で法案を通してもらわないと、維新は大阪で改革等、やりたいことが十分できない。→ これでは、国民に選択肢を示すことはできない。**



※左の図は製作者の想像ですが、結果としてはそのような形になっています。

## 日本の政治に何が起きているのか？

### 明治以来繰り返されている不毛なループ

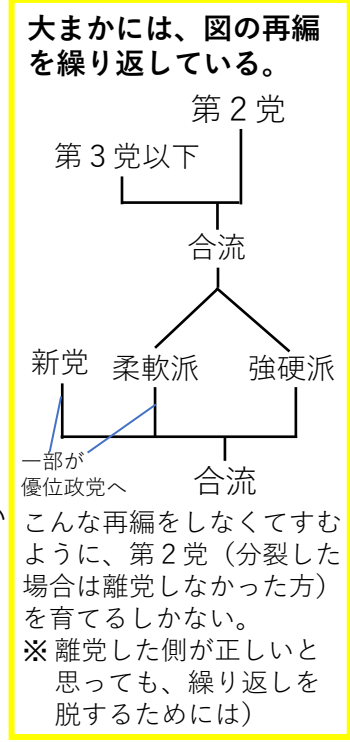
鎖につながれているかのように、同じところをぐるぐると回っている・・・

- 0. 理念や政策よりも、支持の拡大、政権獲得を優先させる政党が優位政党になる。  
...自由党系  
→戦前の2大政党のもう一方(=戦後の2大保守党のもう一方)と合流して、自民党を結成。

自民党はとにかく**利益団体、選挙区に利益をもたらす政党**。総理大臣になりたい有力政治家グループ(派閥)の集まり。**曖昧な政党だから対決しづらい**

3~5人が当選する中選挙区制下、自民党のライバルであった**社会党が、2人、ましてや3人も当選させるのは非常に困難**。自民党は戦前のほぼ全ての政党が合流したものであったから、各選挙区に、**すでに複数の、地盤を持つ議員がいた**。=超有利  
社会党は冒険するよりも**極端な主張をして1人の当選を確実に**。

1. 優位政党に対抗しようとする第2党は、理想主義的政党、とにかく**反対の、対決型の政党**になる。  
...戦前の改進黨系、戦後の社会党系。
2. 第2党が弱く、非現実的であるため、**不満が生じ、分裂したり、新勢力が台頭する**。  
...新党ブームもこれに含まれる。1強多弱になる。
3. **ごくまれに優位政党が権力闘争によって分裂する**。(優位政党だからこそ、権力闘争は時に熾烈)  
...半数の議員が政友会を離党して政友本党を結成。羽田・小沢派が自民党離党、新生党結成。
4. 優位政党に対抗するため、**第2党を中心に多くの党派が合流する**。  
...戦前の進歩党結成。進歩党の系譜は以後合流を繰り返した。  
...改進黨→進歩党→憲政本党→国民党→同志会→憲政会→民政党  
...戦後の民主党結成。民主党の系譜も以後合流を繰り返した。  
...進歩党→民主党→国民民主党→改進黨→民主党  
...冷戦後の民主党拡大。民主党は結成後、他の政党を吸収していった。  
...社民党→民主党(98年に拡大)、(03年に拡大)→民進党
5. 第2党が無理に合流したために、そして何よりも、**理想・対決路線か、現実・是々非々路線かで迷い、まとまらないために、大分裂**。  
...戦前の国民党、戦後の民主党(冷戦後の民主党ではない)、民進党
6. 優位政党が他党の議員を個々に**吸収**。(1人ずつなので動揺しにくい)  
...自民党の候補に勝てるようになった野党議員が、自分の選挙区に強い自民党候補がないことで、自民党に入りやすくなるという例も。  
...自民党は当選しやすい人物が欲しい(小選挙区制での話)。



※以上は順番が変わることもあります。

**NO** **こんなことを繰り返しては、いつまでたっても、政権を選ぶ選挙、理念、政策で選ぶことができる選挙にはならない!**

- 国民は考えなくていい、自民党に全て任せればいい。 → **X**
- 野党を選ばなくていい、ブレーキとアクセルは公明党。 → **X**
- 政党なんて育てなくていい、不満ならブームでも起こせば? → **X**
- 改革さえやれば全てOK! 格差? 「下」に合わせればいい。 → **X**

## でき過ぎている！？ 自民党の危機回避

安倍内閣の支持率が大きく下がった時、小池ブームが起こった。これ自体は、自民党の権力争いであり、自民党への不満が、小池氏への期待となっていた。しかし・・・

・反自民票が民進党と希望の党に分散すれば → 自民党有利に。

小池ブームが盛り上がり過ぎて、自民党が脅かされた。

・立憲民主党ブームが起こり、希望の党と反自民票を対等に  
分け合った。→一転して自民党有利に

※民進党幹事長内定者の不倫疑惑が持ち上がると衆議院を解散。  
この「有利な時にいつでも解散できる権」も大問題。

新型コロナ対策に関して安倍内閣の支持率が大きく下がった。

・維新ブームで、民主党系と共倒れコースに。→ 自民党有利

※それでも不安があれば総理交代で支持率上昇。「いつでも  
解散できる権」でぼろが出る前に解散・総選挙も可能。

憲法を改正するなら、  
広告の規制が前提で  
あるべき。そして、  
総理の解散権を否定、  
任期満了まで半年を  
切った場合、総理の  
交代は第2党の党首  
に限ることにすべき。

### 自民党内の「政権交代」ではダメ

自民党内の大派閥が交互に政権を担うのは、  
ただでさえ邪道な、ニセモノの政権交代だが、  
小選挙区中心の今の選挙制度では、各選挙区  
に自民党の候補者は一人しかいない。つまり、  
派閥を選んで投票することはできない。自民  
党（の最大の実力者）による国民の排除。

### 理想の政党を求めてはいけない

そんな政党はないし、あればこわい  
(中国共産党も「理想の政党」のはず)  
政党とは社会の「部分」、腐敗もする。



異なるタイプの政党が互いに監視、競争

支持する政党に、  
投票するだけでは  
変わらない。  
自民党の一人勝ちが  
続くだけ。国民は  
なめられ、自民党の  
質も低下してしまう。

自民党が政策ごとに組む相手をかえる「部分連合」を認めてはいけない。  
個々の政策が実現しても、それは自民党のものに過ぎない。自民党は、  
立憲民主党の追及が煩わしければ維新の会と組み、維新の改革の要求が  
煩わしければ、立憲と組むことができる。

少し譲歩するだけで、やりたくない事をやらずにすむ。先送りが続く・・・

このまま、関係者のための調整の政治を続けていては、試練に立ち向かえない。  
改革派が少しいれば良いということでもない。第1、2党を育てなければ、  
どちらの欠点も治らない。激変の時代、多くの重要な問題、深刻な問題・・・

IT技術の発展

隣国の脅威

グローバル化

途上国の台頭

大災害

新型コロナ

少子化

これらに実は対応できない・・・そして心配される、食や医療の格差

第1、2党が対等になれば、真の競争が始まる。万年与党と万年野党  
では芽生えないような感情、責任感が自民党のライバルにも生まれる。  
反発より工夫が重視されるようになる。議論が重視されるようになる。  
2009年はその第一歩であった。自転車の練習をする時、補助輪を  
外せば必ず転ぶ、傷を負う。そこであきらめたら前には進めない。

#### 製作者紹介

伊吹 健 (いぶき けん) ホームページ：政権交代.com

小6で土井ブーム、高1で新党ブームと政権交代を経験しました。母の  
祖国ドイツに行くと、いつも日本の自慢をしていましたが、どうしても  
誇れないことがありました。それは政権交代、特に選挙における国民の  
判断で政権交代が実現したことが、ほとんどないということです。  
高校生の時、知識に乏しい中で、自民党の離党者が中心となった非自民  
連立政権の誕生を見て、日本ではそのような政権交代しかできないのか、  
と失望。以来ずっと、真の政権交代、政権交代の定着に期待して政治の  
動きを追い、政治史、他国の政治等を学んできました。私はいわゆる  
「日本の左派」ではありません。軍備は充実させる必要があると考えて  
います。憲法改正に賛成です。2012年の自民党の改憲案は論外だと思  
いますが、自民党を敵視していません。維新の会の改革を評価して  
います。しかし、それぞれ負の面もあることから、保守2大政党制には  
否定的です。政党システム全体を見る事が重要だと考えます。対米追従  
は問題だと思いますが、最大の脅威は中国、北朝鮮だと考えています。  
そしてそれでも、社会民主主義の大政党は必要だと考えています。

※ドイツは他の欧米諸国と比べると、選挙による政権交代はかなり少ないです。

一票を持っているだけでも、できることはあります  
自分達で選べる国へ、次の一步を！

選挙後に、機会を見つけて野党から与党に移るような、「反選挙派」の  
議員の動きを否定することも重要。移るのは自由だが、議員辞職すべき。